様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年　5 月　5 日現在

機関番号：12603
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008-2011
課題番号：20720236
研究課題名（和文）東アフリカにおけるセクシュアリティの変化と「シングル」の生活戦術の可能性

研究課題名（英文）Changes of sexuality in East Africa and the possible strategy for "single" peoples.

研究代表者　椎野　若菜（SHIINO　WAKANA）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：２０４３１９６８

研究分野：文化人類学・民俗学
科研費の分科・細目：文化人類学
キーワード：ウガンダ ケニア シングル 女性 寡婦 社会変化 結婚　離婚

１．研究計画の概要

本研究は、植民地経験に端を発する西欧近代化、近年のグローバル化に伴い著しい社会変化をみせる東アフリカにおいて、さまざまな理由で単身の状態にある「シングル」の存在に注目する。伝統的に結婚が重視されるアフリカ社会においてはマイノリティとされ、さして研究対象にもされてこなかった「シングル」であるが、実はどの社会にも存在する。彼／彼女らは社会のなかでいかに位置づけられ、むしろどのような役割を期待され、人間関係のネットワークを築き生活戦術を展開しているのだろうか。本研究では、「シングル」の実態を調査し伝統的理念と実際、社会保障や女性の権利拡大など新たな近代国家政策との相関性を人類学的に考察し、最終的には社会変化の激しいアフリカ社会において「シングル」が生きうる新しい可能性を探りたい。

具体的な調査地は、長期の専制政治の終結後、新政権による政策の転換をここ数年間経験したケニア共和国、十数年にわたる内戦の終結を今年むかえたウガンダ共和国という、いずれも大きな変化の途にある国家における、ナイロート系言語文化の民族社会である。

２．研究の進捗状況

本研究ではケニアとウガンダを調査地とし、また日本人に対しアウトプットすることを考慮し、人類学における「シングル」の概念についても文献調査と概念についての研究を行ってきた。

（１）方法　海外における調査は主に８月と２月、短期で５月に儀礼調査を行った。村落調査と都市における調査、また都市においては現地の大学の研究者とも研究連絡を実施してきた。日本においては大宅壮一文庫の文献等、現在の「シングル」の使用される背景を調査し、ほかの地域の研究者とも共同研究の場をもうけ議論を継続している。

（２）成果のアウトプット

こうしたこれまでの実地調査と国内での「シングル」の比較研究の成果として、昨秋に『「シングル」で生きる：人類学者のフィールドから』（お茶の水書房）を出版した。また２月にはトークイベントを実施し来場者を交えての議論を展開、そして３月には国立市民館での講座に招待講演され、一般の「シングル」に関心のある方がたと議論することで研究上のヒントを得ることができた。

また日本にいるときもケニアの新聞社のオンライン情報からも絶えず情報をとり、現地の研究者や協力者と連絡をとり、村落や都市の新しい情報をアップデートするよう努めている。

概してこれまではケニア調査研究に重点をおいてきたため、最終年はウガンダに重点をおき調査研究を行い、また「シングル」という日本語をキータームにするにあたり日本における文献調査も継続し総合的に成果もだしていく。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

すでに成果を出版という形で世に出すことができたのは計画しているよりも達成度は高い。しかしこれまでケニアに重点をおいてきたため、それに比べるとウガンダでの調査経験もまだ浅いこともあり、まだ手薄の観が否めない。それゆえ、今年度は補足しながら総括していきたい。

４．今後の研究の推進方策

本年度は、本課題の最終年度となるので、総括をしていきたい。対象としてきたケニアの農村部、都市部、ウガンダの農村部と都市部にて、5 月と 8, 9 月に総合的調査を行う。都市部においては新聞などの記事の取り上げ方を二国間で比較しながら傾向をまとめる。社会学との「シングル」をめぐる議論もシンポジウムを行う予定である。

ウガンダ・ケニアでえた「シングル」やセクシュアリティについての民族誌的データをまとめながら発表し、他地域のシングルの状況と比較しながら、東アフリカの特徴をあぶりだしていく。また同時に、ケニアとウガンダという異なる国家のもとで生まれた同じ言語系の人びとの文化が、時代とともにどのように差異を生むことになったか、分析したい。

以上の調査補充を行いながら、成果発表の準備もすすめていく。2011 年 9 月初旬には日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターにて現地研究者との研究セミナーを開催予定である。来年度秋にもウガンダ・マケレレ大学にて国際シンポジウムを開催予定である。そうした国際的な発表の機会を念頭に、議論内容を充実させていく。また日本の一般公開むけの「シングル」についての公開講座やトークイベントも上半期に 1 度、下半期に 2 度は開催する予定である。一般とのやりとりのなかで、日本の「シングル」についても調査しながら、最終的にはその日本の読者にたいし来年度に成果出版物をだせるよう、下半期にはまとめをすすめていく。

５． 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計３件）

椎野若菜、「フィールドワーカーのためのネットワーク：Fieldnet がめざすもの」『地域研究コンソーシアム・ニューズレター』査読無、pp.8-9、2011 月 3 月 31 日。

椎野若菜、「フィールドワーカーのためのネットワーク：フィールドネットにようこそ」、『Field＋』4 号、査読無、pp.24-27,2010 年 7 月 20 日

椎野若菜、「人生とともにあるフィールドワークと人類学：「やもめ」から「シングル」研究をめぐって」『ピエリア』査読無、pp36-37,2010 年 4 月

〔学会発表〕（計２件）

椎野若菜「ケニア・ルオ村落社会で公共性を考える－独立から『ケニア再生』の期待とのはざまで」日本アフリカ学会　関東支部「『アフリカの年』から半世紀―過去・現在・未来」（招待講演）2010 年 12 月 11 日　法政大学（東京都）

椎野若菜「教室／大学というフィールド―文化人類学の何をどう伝えるか」文化人類学会関東地区懇談会 2010 年 11 月 6 日 立教大学池袋キャンパス　12 号館（東京都）

〔図書〕（計２件）

椎野若菜編著、『「シングル」で生きる―人類学者のフィールドから』（田中雅一、棚橋訓ほか 13 名、1 番目、14 番目）御茶の水書房、2010 年 10 月 20 日、全 251 ページ。

奥野克巳・花渕馨也編、『文化人類学のレッスン―フィールドからの出発　増補版』学陽書房（11 名中 4 番目、西本　太,シンジルト,田川　玄, 椎野若菜,織田竜也,田中正隆,花渕馨也,奥野克巳,渥美一弥, 梅屋　潔,島田将喜）2011 年 1 月 19 日、全 288 ページ。